

平成 31 年 1 月 24 日

「南区コミュニティ・コーディネーター育成講座」の視察について

氏名 小川 崇

- 1 訪 問 日 平成 30 年 11 月 21 日
平成 31 年 1 月 23 日
- 2 会 場 白根高校
白根学習館
- 3 対 象 白根高校の生徒
- 4 運 営 団 体 白根地区公民館
- 5 活動の概要

第 1 回目の視察では、白根高校 1、2 年生 8 名が、3 グループに分かれ、各グループについてコーディネーター（みらいず works）および大通地区住民と一緒に、大通地区シルバー世代の住民間のコミュニケーションを深めるためのアイデアを出すためのグループワークを行った。第 2 回目の視察では、白根高校生の活動の結果を「アイデア発表会」というかたちで発表し、その具体的な実践として 2 月 22 日、27 日の 2 回にわたって「楽しく！らくらく！スマホであそぼ」（スマホ講座）を行うことが発表された。

6 活動にみえる「次世代育成」

第 1 回目の視察時、長田裕校長は、白根高校の生徒は地元就職志向が強く、同時に地域住民に様々に協力してもらっているため、地元で活躍できる人材の育成を重視していると語ってくれたが、今回の試みは若者世代が生活する地域の課題に具体的に向き合うという点で「次世代育成」を強く意識しているといえる。同じ地域で暮らしているとしても、年齢等が異なれば向き合うべき課題の共有は難しい。その点を、実際に地域の高齢者世代との関わる中で実感し、同世代と議論を繰り返す中で高齢者世代のコミュニケーションを深めるためのアイデアを出し合い、それを実現することは、将来の地域住民として向き合うべき課題を意識できるきっかけとなるのではないかと。

7 今後に向けて

今回育成講座に参加した 11 名の白根高校生は、議論で 19 ものアイデアを出した結果、「高校生が教えるネット教室」＝「スマホ講座（LINE 講座）」を選択したという。この試みがうまくいかどうかはわからない（ここでいう「うまくいく」とは、「スマホ講座」がつつがなく終わるという意味ではなく、参加した高齢世代がスマホを使ったコミュニケーションに意義を見いだすということであり、高校生がそこで高齢世代の課題をより実感するという意味）。この企画自体の成功・失敗ということよりもむしろ、これをきっかけとして高校生が、高齢者をはじめとした地域住民の課題に目を向ける、高齢者世代や地域住民との関わりを意識する、継続的に地域の課題に関わるといふことにつながるということが重要であり、その先にはより多くの現在の高校生世代が地域課題に関わるための更なる仕掛けが必要なのではないかと。